

令和7年度の事業報告・予定及び 令和8年度以降の事業予定について



大阪SDGs行動憲章



わたしたちは、「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」をめざす“持続可能な開発のための2030アジェンダ”（SDGs）の理念に賛同し、2025年大阪・関西万博の地元都市として、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に向けて、SDGsの17ゴールの達成をめざします。

1. かけがえのない“いのち”を大切に、地域社会や環境に配慮して行動します。
2. 2030年に住みたい魅力あふれる大阪をイメージし、できることから意識して行動します。
3. 人と人との出会い、つながりを大事にしなが、互いに学びあい協力して行動します。

2021年（令和3年）1月22日 策定

令和8年3月

企画室連携課

- 2025年大阪・関西万博の開催都市として、**世界の先頭に立ってSDGsの達成に貢献する「SDGs先進都市」の実現**に向け、オール大阪で新たな取り組みの創出を図るため『**Osaka SDGs ビジョン**』を策定（2020年（令和2年）3月）
- また、SDGsを意識した行動を広げていくため『**大阪SDGs行動憲章**』を策定（2021年（令和3年）1月）するとともに、府民一人ひとりの具体的な行動を促すため『**私のSDGs宣言プロジェクト**』を開始（2021年（令和3年）2月）
- SDGsの認知度が着実に高まる中、『Osaka SDGs ビジョン』に掲げる大阪府の役割に沿って、**より理解を深める活動や、ステークホルダー間の連携を促す取り組みを推進していく。**

◆ 『Osaka SDGs ビジョン』で掲げる大阪府の役割

- ① 府民や企業、市町村など、様々なステークホルダーに**SDGsを広く知っていただく**
⇒ SDGsの**更なる浸透**を図り、これまでにSDGsになじみのなかった**新たなステークホルダーの掘り起こし**や具体的な行動につなげる
- ② 様々なステークホルダーの取り組みをSDGs実現に向けて**相互につなぎ合わせていく**
⇒ **関西SDGsプラットフォーム**や**国関連機関、経済界、金融機関**などと連携し、それぞれのネットワークを活かしながら、ステークホルダー間の**マッチング**と**新たな取り組みの創出**を図る
- ③ **府自らも**ステークホルダーの一員として、**SDGsに貢献**する
⇒ 庁内各部署の**主体的な取り組みの更なる充実・強化**を図り、SDGsとして取り組むからこそできる施策を幅広く展開していく
- ④ ハード・ソフト両面から「**SDGsを具現化した都市づくり**」を進める
⇒ 大阪の持続的成長や、府民の豊かさ、安全・安心の実現に向け、SDGsの理念に沿った**社会システムや価値観の変革**を進める

議題 1 令和7年度の事業報告

(10月以降の取り組みを中心に報告いたします)

1. 令和7年度の事業報告

① ステークホルダーへのSDGsの更なる浸透・具体的な行動の促進に向けた取組み

○ 府民や企業・団体に向けた機運醸成

<大学や各種団体向けSDGsの講演・講義>

大阪ホスピタリティ・アカデミー（12/15）

<ステークホルダーとの連携によるSDGsイベント等>

産経新聞×SDGsキッズ支援プロジェクト（11/3）

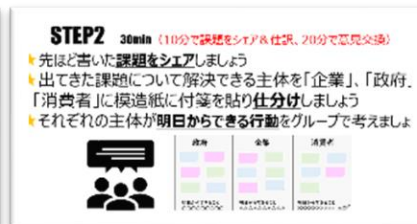
三井不動産×EXPO文化祭（11/15）



EXPO文化祭におけるブース出展の様子

<新たな取組み①> 関西大学社会学部草郷ゼミ生との講義開発

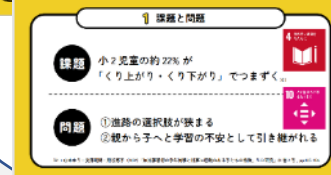
学生がSDGSをジブンゴト化し、具体的な行動に移すきっかけとなる「講義」と「教材」の開発に取り組みました。「ファストファッション」をテーマに、大量生産・大量消費の現状やリサイクル率の低さなどの課題を学んだうえで、付箋と模造紙を使用し「企業」、「国」、「消費者」、それぞれの立場からできることをグループで考える内容です。ファストファッション以外のテーマでも実施でき、学生の興味・関心に応じたアレンジが可能です。



<新たな取組み②> 立命館大学、Microsoft社との連携

AIを活用した社会課題の解決に関心のある学生を募り、解決策の企画をサポートするプログラムを実施しました。

プログラムに参加した学生のうち7名が、関西SDGsプラットフォーム主催の「関西SDGsユースアクション」に応募し、1名がベストアイデア賞、2名がグッドアクション賞を受賞しました。



1. 令和7年度の事業報告

① ステークホルダーへのSDGsの更なる浸透・具体的な行動の促進に向けた取組み

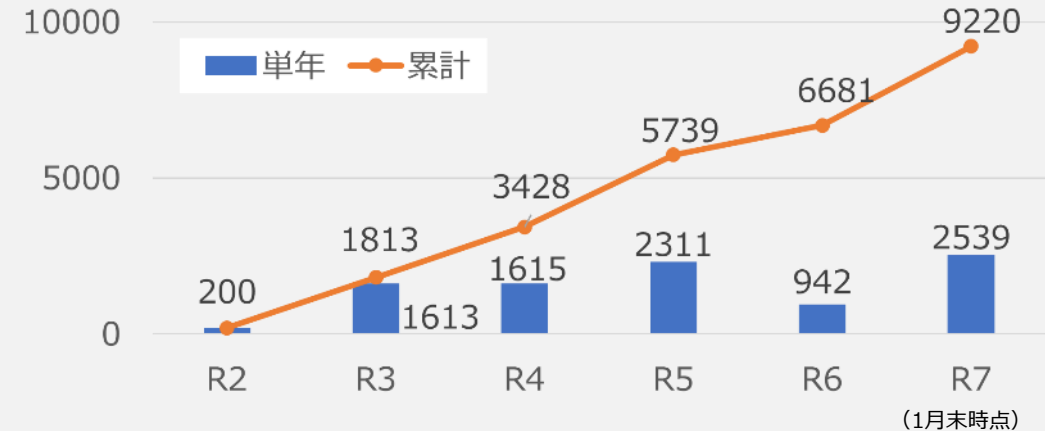
○ 私のSDGs宣言プロジェクトの推進

府民や企業・団体などに、自らが行うSDGsの達成に向けた取組みを宣言してもらうプロジェクト

● SDGs宣言の件数

	宣言件数	うち個人	うち企業・団体
令和7年度（単年） ※1月時点	2,539件	2,316件	223件
（参考）累計	9,220件	8,272件	948件

SDGs宣言件数の推移（件）



○ 「OSAKA SDGsデータブック」の2025年度版を策定

昨年度作成したデータブックを最新データに更新（令和8年3月）引き続き、自治体SDGsモニタリング研究会が開発したデータを活用。

<日本語版>

<英語版>



作成したデータブックは企業向けの研修会でも活用しています



2024年度版のデータブック



② ステークホルダーをつなぐ取組み

令和7年9月5日に万博会場内で開催した「OSAKA JAPAN SDGs Forum」のプレバント、「SDGsとビジネスの価値」の第3弾を1月16日に開催。万博会場では実施できなかった参加者どうしの交流会も実施しました。

■ 第3弾のテーマ：「SDGsとビジネスを繋ぐアイデアやアクション発表会 & 交流会」

第1弾と第2弾イベントの参加企業・団体の皆様等に登壇いただき、SDGsとビジネスを繋ぐアイデアやアクションを発表いただきました。

<イベントプログラム>

- ・オープニング（大阪府、QUINTBRIDGE）
- ・SDGsとビジネスの両立に向けたアイデア・アクションのシェア
- ・大阪府内市町村からの発信
- ・交流会

<参加者数>

58名

➤ 第1～3弾の成果をとりまとめた開催レポートを作成し府HPに公開



<登壇者>

EMIELD株式会社（★）、octangle合同会社（★）、学校法人OCC（大阪キリスト教短期大学、教育テック大学院大学）（★）、合同会社キャリアボンド（★）、スパイスキューブ株式会社、トレード・ネットワーク・ソリューションズ（★）、株式会社Nature Innovation Group、50kun（★）、毎日新聞社（★）、合同会社Ledesone
 ※五十音順、（★）は第1弾・第2弾の参加企業・団体



登壇者のみなさま



交流会の様子

1. 令和7年度の事業報告

③ 府自らの取組みの推進

○ SDGs未来都市計画の更新（R8年3月末策定予定）

「第2期SDGs未来都市計画（2023～2025年度）」の計画期間終了に伴い、2030年までを計画期間とする「第3期SDGs未来都市計画」を3月末頃に策定・公表予定。

現行の第2期計画の内容を引き継ぎつつ、大阪・関西万博後の持続的な成長・発展と、府民の暮らしの向上に向けた成長戦略である「Beyond EXPO 2025」と連動し、更新を行う。

○ SDGs未来都市意見交換会（R8年1月16日）

NTT西日本株式会社が運営するオープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE」において、府内のSDGs未来都市の担当者による意見交換会を開催。併せて「QUINTBRIDGE」より公民連携に向けた取組みの紹介や施設見学を開催

参加自治体：大阪市・堺市・豊中市・富田林市

【参考】大阪府内のSDGs未来都市の選定状況

選定年	選定都市	モデル事業
2018年度	堺市	
2020年度	大阪府・大阪市（共同）	○
	豊中市	
	富田林市	○
2021年度	能勢町	
2022年度	阪南市	○
2024年度	枚方市	



施設見学の様子

1. 令和7年度の事業報告

④ SDGsを具現化した都市づくりを進める

令和7年9月5日に万博会場で開催した「OSAKA JAPAN SDGs Forum」の開催レポート等を作成

【開催レポート】

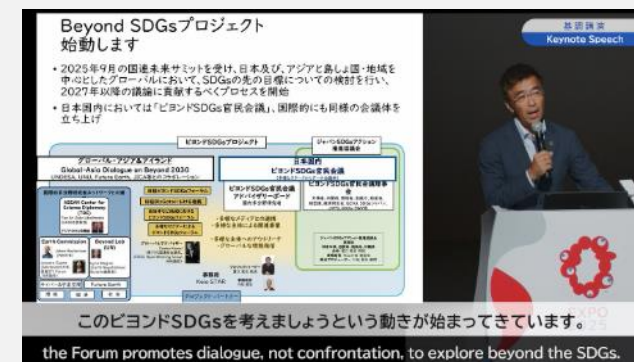
フォーラムの内容をまとめた開催レポート（日本語版・英語版）を作成。漫画を取り入れるなど読みやすい工夫を行った。

【ダイジェスト動画】

10分程度のダイジェスト動画を制作。英語字幕も併記し、フォーラムの成果を国内外に発信していく。



上) 日本語版
下) 英語版



1. 令和7年度の事業報告

【その他】 ビヨンドSDGsに向けた取組

2027年から国連ではじまるSDGsの次の国際目標の検討に向け、大阪の声を発信することを目的に「ビヨンドSDGs官民会議」の理事会に参画しました。

ビヨンドSDGs官民会議理事会名簿

【理事長】

蟹江 憲史（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）

【理事】

高橋 慶太（外務省国際協力局地球規模課題総括課長）

宇田川 徹（内閣府地方創生推進事務局参事官）

高岡 文訓（金融庁総合政策局総合政策課サステナブルファイナンス推進室長）

黒部 一隆（環境省大臣官房総合政策課環境計画室長）

市川 紀幸（経済産業省経済産業政策局地域経済産業グループ地域産業基盤整備課長）

長谷川 知子（一般社団法人日本経済団体連合会常務理事）

樋口 麻紀子（公益社団法人経済同友会政策調査部長）

有馬 利男（一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン代表理事）

三輪 敦子（一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事）

大貫 萌子（SDGs-SWY共同代表）

山口 凜（持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム事務局長）

近藤 英里奈（G7/G20 Youth Japanメンバー）

藏並 豊綱（神奈川県政策局企画連携・SDGs推進担当課長）

山内 哲也（大阪府政策企画部企画室連携課長）

井口 雄大（株式会社博報堂クリエイティブディレクター）

ビヨンドSDGs官民会議

（Public Private Forum on Beyond SDGs）

多様なステークホルダーが集まり、2030年より先の未来に向けた目標設定と、その達成に向けた行動を深めていくためのイニシアティブとして、2025年に発足しました。

BEYOND!
for beyond SDGs

私たちが、真に豊かな未来を実現するために、
足りないものはなんだろう？

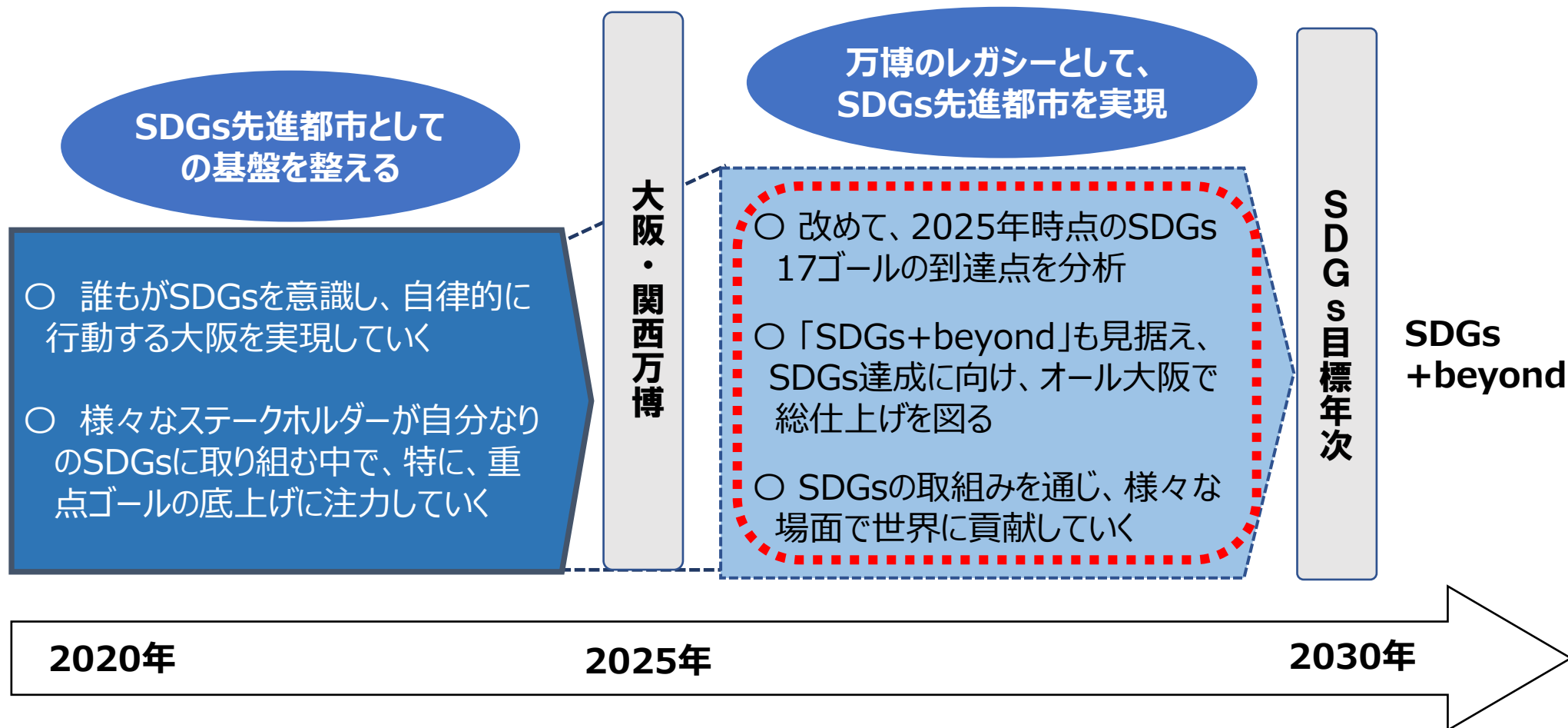
BEYOND!
for beyond SDGs

議題 2 令和 8 年度以降の事業予定

2. 基本的な考え方

(4) 取組工程

- 万博に向け、「SDGs先進都市」としての基盤を整え、2030年のSDGs目標年次に向けた総仕上げを図る中で、万博のレガシーとして「SDGs先進都市」を実現する。



2. 令和8年度以降の事業予定

新たな取組み①（個人のSDGsアクションの加速化に向けた取組）

- 万博の開催により、万博ボランティアをはじめとする府民の、社会や地域における課題への関心の高まりが期待される。こうした関心の高まりを、具体的な行動に繋げていくことで、課題解決に取り組む裾野の拡大、万博のソフトレガシーの継承、ひいてはSDGs先進都市の実現につなげていく。
- 本事業では、きっかけがあれば、社会や地域の課題解決に取り組むと考える潜在層にアプローチし、こうした個人に合った誘導やフォローを実施。
- 誘導プログラムでは、地域課題の解決への参画を促し、さらに、フォローアップでは、1人ではスタートしづらい個人活動の希望者へのサポートを行う。

事業イメージ



事業スキーム



2. 令和8年度以降の事業予定

新たな取組み②（府内ステークホルダー向けイベント）

これまで開催してきた「OSAKA SDGs Forum」を引き継ぎつつ、府民向けのアプローチを強化。
府民向けについて、民間企業や府内SDGs未来都市が主催するイベントとの連携を積極的に調整していく。

対象	これまで	今後
府民	<p>OSAKA SDGs Forum</p> <p>※参加者は前ステークホルダーを対象にしていたが一般府民の参加ハードルが高いものであった</p>	<p>府民向けイベントへの出展</p> <p>➢ 民間企業・府内市町村が開催するイベントと連携</p>
ユース世代		<p>民間SDGs企画との連携</p> <p>➢ SDGs絵画コンクール企画やコンテストなどと連携</p>
企業・団体		<p>SDGs Acceleration Forum OSAKA</p> <p>➢ SDGsForumを継承し、先進事例の共有や共創の創出をめざす</p>

2. 令和8年度以降の事業予定

調査分析について

➤現在、毎年2回実施しているSDGs認知度調査（インターネット調査）を実施中。

Q) 行動憲章の各内容の必要性を確認

(必要だと思う、必要だと思わない、わからない/どちらともいえない)



Q) 不足、強化すべき観点・キーワード

(複数選択可)

- 1 ウェルビーイング
- 2 AI・先端技術
- 3 宇宙
- 4 文化・芸能
- 5 スポーツ
- 6 自然災害
- 7 孤独・孤立
- 8 動物福祉
- 9 その他（自由記載）
- 10 特になし

Q) どの程度意識して行動しているか

(そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない)

1	SDGsの達成は政府や企業だけの課題ではなく、自分の日常の選択・行動とも関わっていることを理解し、身近な例を挙げて説明できる。
2	これまで実際に行ってきた行動・活動（習慣、参加経験、業務上の取り組み等）について、どのSDGsの目標またはターゲットに、どのように貢献しているかを、具体例とともに言語化できる。
3	今後中長期的に取り組みたい（または継続・強化したい）行動・活動について、どのSDGsの目標またはターゲットに、どのように貢献させるかを、「何を・いつまでに・どの頻度で」の形で計画として示せる。
4	上記項目3で立てた計画のうち、少なくとも1つについて、すでに着手している。
5	上記項目4で着手した取り組みを定期的に振り返り（例：月1回・四半期1回など）、結果や気づきに基づいて内容・頻度・方法を見直ししながら継続している。

Q) ビヨンドSDGsに向けた議論への参加希望

- 1 積極的に参加したいと思う
- 2 機会があれば参加したいと思う
- 3 あまり参加したいとは思わない
- 4 参加したくない
- 5 わからない

<Qネット（大阪府の政策マーケティング・リサーチ）について>

○調査方法

民間の調査会社が保有するモニターを対象としたインターネットアンケート調査

○調査対象

国勢調査に基づく性・年代・居住地の割合で割り付けた18歳以上の大阪府民1,000人

<アンケートの主な変更点>

項目	方向
属性情報	継続
SDGs認知度	継続
SDGsを知った経路	削除
関心が高まると思う取組	継続
大阪で重要なゴール	継続
行動憲章の認知度・賛同度	見直し
意識度・行動度	見直し
宣言PJ認知度・参加希望	見直し
関心のある取組主体	削除
大阪府への期待	継続
笑いとうるビーイング	継続

※上記に加え、SDGs達成の見通しや、ビヨンドSDGs検討に向けた項目を追加